

# 目次

大分市の概要	1	2 就園奨励費及び私立学校補助金	33
教育行政		3 幼稚園教育の振興と充実	34
1 教育委員会委員	2	4 研修・研究活動	34
2 歴代教育委員・教育委員長・教育長	3	特別支援教育	
3 大分市教育ビジョン	4	1 特別支援教育の推進	35
4 組織機構と事務分掌	7	2 特別支援学級	35
5 平成22年度市費職員配置数	8	3 特別支援学級在籍者数の推移	36
教育財政		4 特別支援学級の運営	37
1 平成22年度教育委員会重点事業	9	5 就学指導	37
2 教育費の推移	10	6 障がい幼児保育	37
3 平成22年度教育費予算概要	10	健康教育	
学校施設		1 平成22年度主要な事業	38
1 学校教育環境	12	(1) 学校保健・安全	38
2 平成22年度主要な事業	12	(2) 学校給食	41
3 学校施設の整備状況	13	青少年教育	
4 学校施設整備事業費の推移	13	1 平成22年度主要な事業	43
5 安全かつ機能的で 豊かな学校教育環境の創出	14	2 子ども教育相談センター	45
6 地域に開かれた学校づくり	14	3 大分市立少年自然の家	46
7 児童・生徒数の推移	14	4 いまいち山荘	48
幼児・児童・生徒・教員・学校一覧		人権・同和教育	
1 幼児・児童・生徒		1 平成22年度主要な事業	49
(1) 学校種別学級数、幼児・児童生徒数	15	2 学校教育	50
(2) 学年別学級数・児童生徒数	15	3 社会教育	51
2 教員		4 人権啓発	52
教員構成	16	スポーツ振興	
3 学校一覧		1 主要な事業	53
(1) 幼稚園	17	(1) 生涯スポーツの推進	53
(2) 小学校	18	(2) 競技スポーツの振興	55
(3) 中学校	20	(3) スポーツ施設の管理及び整備	56
(4) エスペランサ・コレジオ	20	生涯学習	
学校教育		1 平成22年度主要な事業	58
1 教育課程の改善と充実	22	2 社会教育関係団体の育成	64
2 教職員研修	25	3 公民館	64
3 教育研究会	27	4 情報学習センター	67
4 進路指導	27	5 関崎海星館	69
5 学校体育	28	6 エスペランサ・コレジオ	71
6 福田展・朝倉展	29	7 河原内陶芸楽習館	72
7 大分市奨学資金制度	30	8 大分市民図書館	73
8 大分市立小・中学校隣接校選択制	31	芸術・文化	
幼稚園教育		1 芸術・文化振興	74
1 就園状況	33		

2	文化財	75
3	大分市歴史資料館	83
4	大分市美術館	86
5	アートプラザ	90

## 資料

1	教育委員会の沿革	93
2	教育委員会会議	97
3	大分市議会文教常任委員会委員	100
4	大分市社会教育委員	100
5	大分市文化財保護審議会委員	100
6	大分市美術館協議会委員	100
7	大分市民図書館協議会委員	100
8	大分市青少年問題協議会委員	101
9	第5期大分市スポーツ振興審議会委員	101
10	大分市体育協会役員	102
11	大分市体育指導委員	103

# 大分市の概要

## 1 自然

本市は、大分県のほぼ中央、扇状地域の要に位置し、南は臼杵市及び豊後大野市、西は別府市、由布市及び竹田市に接しています。市域面積は501.28km<sup>2</sup>と広く、そのうち佐賀関地域が49.45km<sup>2</sup>、野津原地域が90.63km<sup>2</sup>を占めています。

地勢は、北は別府湾、東は豊後水道に面しており、西から南にかけては、高崎山をはじめ鎧ヶ岳、九六位山、樅木山などのみどりの山々が連なり、これらを縫うように県下の二大河川である大野川、大分川が南北に貫流しながら別府湾に注いでいます。

## 2 歴史

本市は、7世紀に国府が置かれて以来450年にわたって政庁所在地として栄えました。鎌倉時代には大友氏が守護となり、16世紀半ば、大友宗麟公の時代には九州9カ国中6カ国を領有し、泰西文化を取り入れて九州の文化の中心となるなど隆盛を極めました。江戸時代には幕府の小藩分立政策により細分され、府内、臼杵、熊本、延岡、岡の各藩や天領に分割統治されました。

明治4年に大分県の県庁が置かれて再び行政の中心となり、昭和38年の6市町村合併による新大分市誕生と翌39年の新産業都市指定を機に飛躍的な発展を遂げました。そして、平成9年の中核市指定を経て、平成17年1月1日の佐賀関町及び野津原町との合併により現在の大分市が誕生しました。

## 3 社会・経済

本市は、政治経済のみならず、交通、情報、文化などあらゆる面で都市機能が集積し、東九州軸の拠点としての役割を担っています。

交通面では、日豊本線など鉄道3線や大分自動車道、東九州自動車道が合流する要に位置し、瀬戸内海、豊後水道を経由する海上ルートにより国内外と通じる海上交通の要衝でもあります。

また、産業面では、北部沿岸に鉄と石油を基幹とする企業群が一大工業地帯を構成し、東端の銅精錬業、内陸部のIC産業や乳製品製造業の各企業とともに本市産業経済のけん引役を果たしています。

さらに、第一次産業は、「関あじ、関さば」に代表される水産業、米や施設野菜を中心に果樹、花きといった都市近郊型農業、豊後牛を中心とする畜産業など多彩で、それぞれ着実な業績を上げています。

人 口	474,539人
男性	228,189人
女性	246,350人
世帯数	203,168世帯
(平成22年6月30日現在)	